

上空視界の情報を用いて、衛星の乱反射電波の影響を軽減する技術を開発

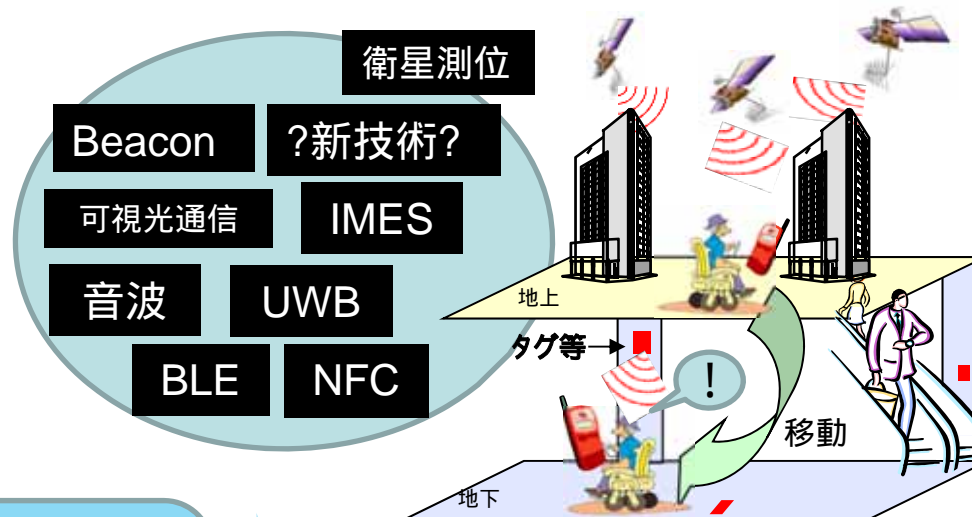
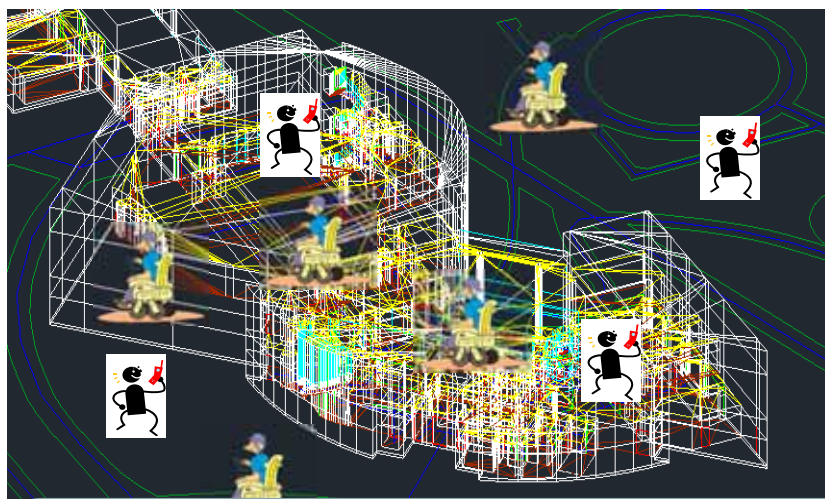
ビル街における衛星測位の適用範囲を拡大し、高精度な衛星測位を実現

測位以外の情報も用いて、屋内測位の精度を向上させる技術を開発

屋内・地下街における位置精度が向上  
避難誘導・移動支援等への利活用拡大

測位技術の違いを意識することなく位置情報を安心して扱える技術を開発

既存技術・デバイスを活用して屋内外をシームレスに測位する環境を実現



技術成果を統合して、測位技術関連のまとまった一本の技術指針・ガイドラインとする。

幅広い分野の有識者による委員会での基準の策定と実証実験の実施

信頼できる位置情報の利用環境が実現

## 2 社会基盤としての3次元地図の整備・更新

多様な表現の屋内地図を統合・3次元化する技術を開発



鳥瞰図



フロアマップ



設計図

統合  
3次元化



地下街等の全体像を示す  
3次元共通地図

多様な技術を活用した効率的な更新技術を開発

頻繁な改修・増改築



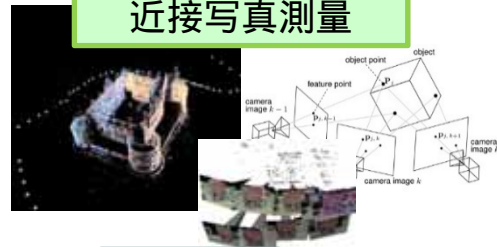
屋内MMS



トータルステーション



近接写真測量

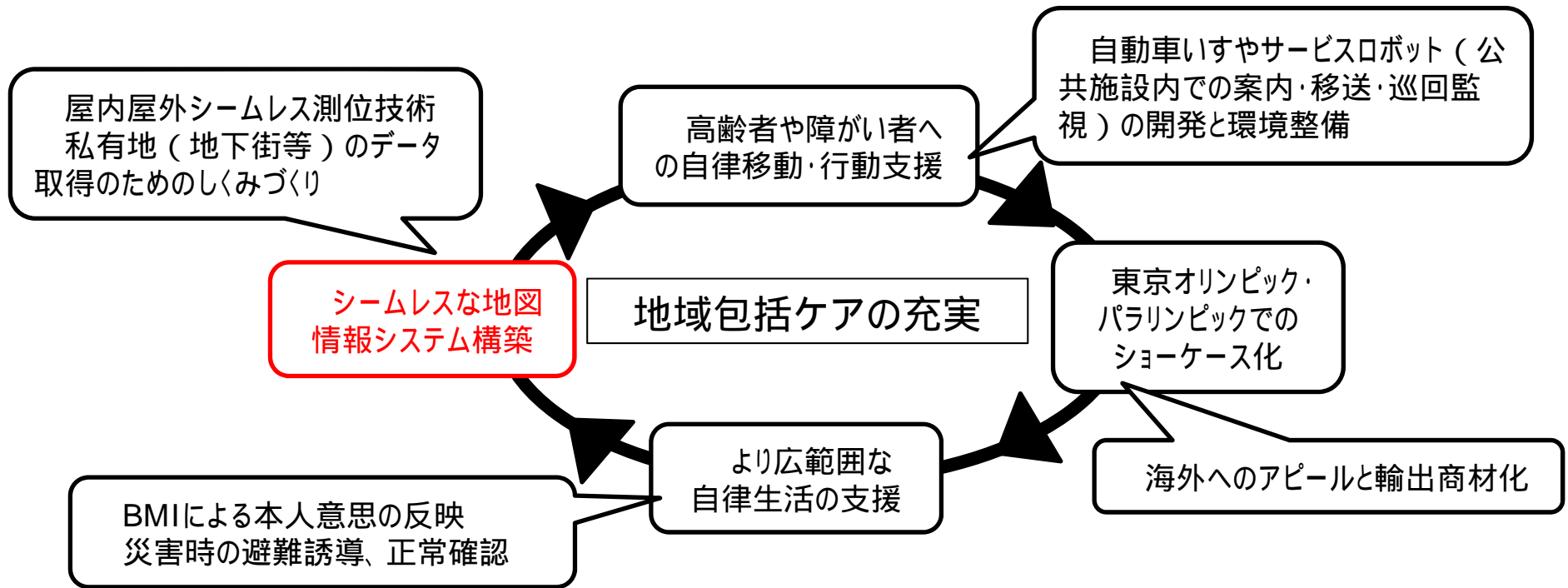


SfM技術の応用 など



対象施設の規模、複雑さ等に応じた、効率的な3次元地図の整備・更新が実現

◆ 屋内屋外がシームレスにつながる地図情報システムやロボット技術の活用により、高齢者や障がい者の方々に対する自律移動や行動の支援をすすめ、社会活動への参画を促すことで、誰もが活力ある暮らしをおくることができる社会をめざす。



## 国土交通省の取組が当該バリューチェーンの実現に資する点

- 高齢者や障がい者の歩行支援やナビゲーション、車いすなどの自動走行など地域包括ケアの充実に資するサービス提供には、基盤となる電子地図が必要。
- 一方、地下街、駅構内などを含む屋内空間の地図は十分な整備がされていない。

➡ 屋内地図の整備促進に寄与するため、簡易な方法で当該地図を作成する技術開発を実施